

川崎近海汽船、近海部門市況改善し黒字化

Edited By LogisticsToday On 2019/04/26

川崎近海汽船が26日に発表した前3月期連結決算は、売上高457億3400万円（前期比10.8%増）、営業利益20億500万円（20.9%減）、経常利益20億4700万円（21.4%減）となった。

外航船1隻、内航船1隻を19年3月にそれぞれ売船し、特別利益として6億2800万円を計上したことから、最終利益は16億9700万円で35.2%増加した。

主力の内航部門は、売上高307億2200万円で10.2%の増収となったが、新造船の竣工による減価償却費が増加したことなどにより、営業利益は18億1600万円で44.6%の減益。近海部門は、市況改善で営業利益が18年3月期の「7億9600万円の赤字」から「4100万円の黒字」へ転換した。

今期は売上高479億円（4.7%増）、営業利益15億5000万円（22.7%減）、経常利益15億5000万円（24.3%減）を見込む。

■決算集計（見出し：年/決算期/四半期、[]：前年同期比、単位：百万円）

	19/3/	19/3/3	19/3/	19/3/1
	通期	Q	中間	Q
売上高	45,734	34,661	22,197	10,507
	[10.8%]	[11.4%]	[10.9%]	[10.8%]
営業利益	2,005	1,528	681	-165
	[-20.9%]	[-33%]	47.6%	-]
最終利益	1,697	1,401	896	-68
	[35.2%]	[32%]	[0.1%]	-]
売上高	4.4%	4.4%	3.1%	-1.6%
営業利益率				